

バルセロナ日本語で聖書を読む会

月報第 130 号 [2015 年 12 月]

さあ、湖の向こう岸に渡ろう

ルカによる福音書 8 章 22 節

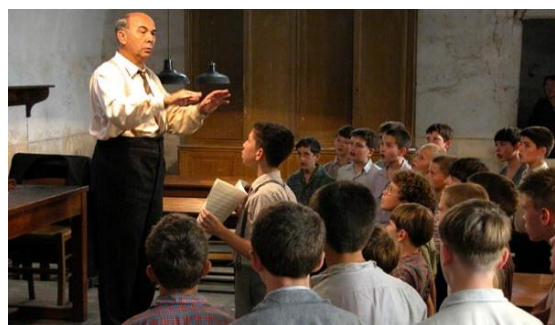
『そのころのある日のこと、イエスは弟子たちといっしょに舟に乗り、「さあ、湖の向こう岸へ渡ろう。」と言われた。それで弟子たちは舟を出した。』

主の聖名を賛美します。バルセロナ日本語で聖書を読む会の月報第 130 号をお送りします。今年最後の集会となる今月の集まりでは、DVD 『コーラス (原題: Les Choristes)』を鑑賞して、愛が成せる業について考えました。

フランスの片田舎にある『池の底』という名の寄宿学校は、どうしてもない問題児を教育する学校。そしてその校長は「不良行為には罰を」という主義を徹底した、厳しいと言うよりむしろ理不尽な教育を実施していた。そんな学校にクレモン・マチューが新任教師として赴任してくる。彼は実は音楽家。しかしその道では成功に至らず、やはり彼自身も“落ちこぼれ”としてこの学校にやってきた者にすぎなかった。



マチューはこの学校の子供達が恐ろしかった。彼らはマチューを馬鹿にし、彼の所持品であり宝物である楽譜を盗み出したりする困り者だったが、その事で子供達が理不尽な罰を校長から受けるのは可愛そうだと思うマチューは、彼らを大切にもした。そんなある日、マチューは子供達に歌を教えてみようと考えた。しかしそれには校長の許可がいる。もちろん、「そんな教育は不要」と一蹴りされてしまうが、それでもマチューは秘密裡に歌を教え始める。



最初は絶望的な合唱団だったが、罰によって歌の練習ができずにいた生徒が素晴らしい声の持ち主であることを発見し、マチューの合唱団は形になっていく。しかし事はそうスムーズには運ばず、人の心に潜む様々な欲望に流されて紆余曲折を経ることになるが、合唱団はその後、赦しと感謝に溢れるコンサートへと発展していき、最後には問題児だった子供達の心に愛が生まれ、彼らは立派な大人になって再会する。

<https://www.youtube.com/watch?v=AJcO-Ns50-8>

世界には愛に飢えた環境がどれほどあるのでしょうか。ニュースにもならなくなった劣悪な環境の中で育っていく子供達は数えきれません。そして彼らは希望のない大人になっていく。愛情を注ぐというのは大変な犠牲を伴う行為ではありますが、勇気をもってその犠牲を払い相手に愛情を注ぐことによって、“愛される者”がどれほどまっすぐ生まれ成長するのがこの作品に描かれています。事実、愛情を注ぐものが近い家族や友人だったら理想的ですが、そういう人すら持たない人にも、神様は知らない所でひとりひとりに深い愛情を注ぎ続けておられる。そしてその愛に気付いた人は、たとえ絶望的な環境の中にあっても希望ある人生を見つけることができる。この愛が世界のあらゆる場所に、そしてあなたの心に届きますように。



ブルーリボンの祈り会 (北朝鮮に拉致された被害者の解放を祈る会)

祈り会では、1977 年 11 月に新潟で拉致された横田めぐみさんの母、横田早紀江さんからの毎月の報告と、西岡師による北朝鮮情報が報告されています。横田早紀江姉の報告は『百万人の福音 ブルーリボンレポート』をご参照ください。また、祈り会での録音は次のサイトから聞くことができます。<http://www.jegschweiz.com/> 救う会からの情報は <http://www.sukuukai.jp/index.php?itemid=1145> をご参照ください。

欧州全域では毎月 1 日午後 9 時に、拉致問題解決を願う祈りを合わせています。1 月 1 日もぜひお祈りください。